

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
○当該学年までに配当された漢字や語句の意味を理解して話や文章の中で正しく使う力。	○中心となる語や文、必要な情報を見付け、文の全体像を具体的に想像する力。 ○自分の考えと事実や理由を分けて相手に伝わる文章を書く力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 既習の漢字を活用する力や語彙の定着が不十分である。 イ 文章を読んで、問われていることを理解する力が不十分である。	ア 文章を書く際に、既習の漢字を使うように徹底する。教科書や日常で出てくる言葉の意味を国語辞典で確認する。 イ 文章の内容理解ができるように、音読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】66% イ 市学力調査【思考・判断・表現】53.6% ○時点で漢字を調べるなど、既習の漢字を使おうと意識する児童が増えた。 ○話し手、書き手の意図を想像して言葉を受け取る力が弱い。
第5学年	ア 新出漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章を読んで問題を理解する力が不十分である。	ア 国語辞典を日常的に活用し、自分で意味を調べる習慣付けを行う。 イ 丁寧に文章を読むことを意識させる。文章の構成や要点を押さえるためにサイドラインを引かせる。	ア 市学力調査【知識・技能】62.5% イ 市学力調査【思考・判断・表現】51.5% ○自ら意味を調べる習慣を付けたことで、語彙力の向上が見られた。 ○文章全体の構成や展開を考える力が弱い。
第6学年	ア 語彙の定着が不十分である。 イ 語彙力や文脈の読み取り不足による誤読をしてしまう。	ア 読解単元の学習前に、国語辞典を使った意味調べの時間を設け、取り組ませる。 イ 3行日記を毎日の宿題に課し、文章を書く習慣を設ける。また、朝学習で読書の時間を設け、本を読む習慣を付けさせる。	ア 小テスト、カラーテスト【知識・技能】 イ 小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 ○事前の意味調べを行うことで、語彙を増やし、単元の学習の理解を深めることができた。 ○毎日 3 行日記を書くことで、いつ・どこで・だれが・何をしたか分かりやすい文章を書ける児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材を活用し、漢字や言葉の意味について繰り返し取り組む。 5年：タブレット PC のドリル教材に取り組み、反復練習を行う。 6年：タブレット PC のドリル教材を活用して、語彙の問題に取り組む。	4年：自分の考えを文章で表現する機会を毎時間設定する。他の児童の考えを聞いて認め合う活動を設ける。 5年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 6年：学習したことを教室及び廊下掲示を活用し、見返すことができるようにする。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	☐ ア 知識及び技能		☐ イ 思考力、判断力、表現力等
○数量や図形などの基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する力。		○問題場면을具体的に想像し、数量の關係に着目して、根拠を基に道筋を立てて考えたり、立式したりする力。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ ア 四則計算の定着と量感の獲得が不十分である。 ☐ イ 文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	☐ ア 朝学習で、四則計算に取り組む時間を設定する。授業で、実物を見せたり、実際に体験させたりするなど量感を育てる。 ☐ イ 文章問題を読み、何を求められているのか、文章に線や印を付け、見付けることができるようにする。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】61.3% ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】54.8% 所見 ○四則計算の力は伸びた。概数で使う言葉の定着を図る必要がある。 ○割合を求める際の基にする数の理解に課題が見られる。
第5学年	☐ ア 四則計算の（特にわり算）の定着が不十分である。 ☐ イ 文章題からの立式が苦手である。	☐ ア 朝学習や授業の導入、家庭学習などでタブレット PC を活用し、四則計算の時間を設定する。 ☐ イ 立式に必要な情報を読み取らせ、全体で確認してから立式させる。文章題の内容を、図や表に表して考える場面を設定する。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】46.4% ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】47.8% 所見 ○小数のかけ算、わり算は正確に解ける児童が増えた。 ○単位量当たりの大きさの理解に課題が見られる。
第6学年	☐ ア わり算の定着が不十分である。 ☐ イ 文章題からの立式が苦手である。	☐ ア 朝学習や毎授業の導入で基礎計算に取り組む時間を設ける。 ☐ イ 文章から分かっている数と求められる数を全体で確認し、演算決定までの道筋を考えさせる。	☐ ア 小テスト、カラーテスト【知識・技能】 ☐ イ 小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 所見 ○四則演算の基礎計算を解く時間が短くなった。 ○文章から立式できる児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材で四則計算を中心に取り組み、反復練習を行う。 5年：タブレット PC のドリル教材に組み、反復練習を行う。 6年：学習の復習でタブレット PC のドリル教材を活用し、個別の課題に取り組む。	4年：ペアやグループで学び合い、学習を深める。振り返りの時間を設け、できたことを自信に繋げる。 5年：廊下掲示や「学びの壁」を活用し、学習したことをいつでも見返すことができるようにする。 6年：「学びの壁」を活用し、学習したことを見返すことができるようにする。